

令和7年度学校評価

本年度の 重点目標	1 個に応じた指導の工夫及び授業力の向上 2 自立と社会参加を促す教育活動の推進 3 安全・安心な学校づくり 4 関係機関や保護者等との連携 5 センターの機能の充実 6 仕事の効率化		
項目	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
小学部	<p>・児童一人一人の病気の状態や学習状況を踏まえ、「分かる喜び」や「人と関わる大切さ」を実感できる授業を展開し、自ら「考える力」「選択、決定する力」の伸長を図ります。</p>	<p>・通常学級、重複障害学級、ベッドサイド学級それぞれの児童の実態に応じ、学習集団や指導内容の工夫改善を小学部全体で進めます。</p> <p>・児童ごとの自立活動の目標や活動内容について、共通理解を図るための方法の工夫改善を繰り返し行います。</p>	<p>・病気等の状態や学習状況に応じ、学年や学級を超えて学び合える環境を整えました。通常学級では、友達同士で意見交換し、互いの考えを深める様子が見られました。重複障害学級では、自分なりの方法で好きなものを選んだり、気持ちを伝えたりする姿が多く見られるようになりました。</p> <p>・自立活動の目標や活動内容の共通理解がスムーズにできるよう、教務部と連携して情報交換用シートの書式の改善を行いました。</p>
中学部	<p>・集団の一員としての自己理解や他者理解を深め、他者とよりよい人間関係を築く力を育みます。</p>	<p>・生徒一人一人の自立活動の目標や活動内容の共通理解を図り、学校生活全般で意識しながら支援します。</p> <p>・集団活動の中で、対話的、協働的な活動を設け、自分の意見を発表したり合意形成したりする経験ができるよう支援します。</p>	<p>・生徒一人一人の自立活動の目標や支援方法を中学部全職員で共通理解し、担任の思いを意識しながら支援しました。</p> <p>・それぞれの生徒に寄り添って気持ちや悩みなどを受け止めることで、生徒が主体的に学習に向かう態度や良好な人間関係の構築につなげることができました。</p>
高等部	<p>在学中に成年年齢にさしかかる高等部段階の生徒として、社会自立を意識した教育活動を実践します。</p>	<p>・社会で生活するのに必要とされる力を考え、個々の課題を高等部教職員で共有した上で、生徒が課題解決できるように支援します。</p> <p>・生徒の病状や障害等を考慮した上で、さまざまな経験ができる機会を設定し、経験を通して自信をつけられるように支援していきます。</p>	<p>・課題や取組について、担任や主任等と日常的に検討したり、部会等を通して情報共有したりしながら、生徒の社会自立に向けて教育活動を実践することができました。また、教育相談後には情報交換会を行ったり、必要に応じてケース会議を行うなど地域と連携しながら生徒の支援を行ったりすることができました。</p> <p>・授業や学校生活、行事の中で、生徒の病状や障害等に配慮しながら、成長段階に応じて生徒が成長できるように支援することが概ねできました。今後も病状や障害等を考慮しながら、さまざまな経験ができる機会を設定し、社会自立・社会参加に向けて、自信をつけられるように支援していきます。</p>
施設内教育	名大 藤田 中京	<p>・児童生徒一人一人の治療状況に合わせた学習環境を整えていくように努めます。</p>	<p>・教室登校とベッドサイド授業の切り替えや、一時帰宅中の学習環境等を、状況に応じて柔軟に対応していきます。</p> <p>・ベッドサイド授業では、学習保障を主眼に置き、訪問教育と連携しながら柔軟に対応することができました。一時帰宅中の学習保障では、前籍校と連携を密に取り、交流及び共同学習や同時双方向型通信を利用して進めることができました。今後も保護者や居住地校との連携強化やICT機器の活用の充実を図り、児童生徒の学習保障に努めていきたいと思ひます。</p>
訪問教育	<p>・児童生徒一人一人の実態に応じた授業づくりをします。</p>	<p>・児童生徒の意欲を喚起することができるよう授業内容・方法を工夫します。</p>	<p>・児童生徒の興味・関心を取り入れた課題設定や、成功体験を積み重ねられるように教材を工夫するなどして、児童生徒が意欲的に取り組めるような授業作りに努めました。一方で、病棟などの関係機関と共通理解のもとで支援を実施していくことが課題としてあり、今後は情報共有の仕組みなどを検討していきます。</p>
総務部	<p>・保護者にとって、より参加しやすいPTA活動の事業計画と内容の精選に努めます。</p>	<p>・保護者のニーズと要望を踏まえながら、保護者と教職員で連携し、PTA活動やPTA研修会を実施します。</p>	<p>・今年度の2回のPTA研修会は、保護者アンケートやPTA役員会での話し合いをもとに内容を決めました。第1回の「障害年金」の講演に続き、第2回のPTA研修会はクラフトバンドを使った籠の製作活動を行いました。参加者の皆さんは、集中力や器用さが必要な籠作りの工程を知り、感心しながら、素敵な籠を作ることができました。とても楽しかった、また製作したいとの声が聞かれました。今後も保護者のニーズを聞き取り、コミュニケーションを取りながらPTA活動を充実させていきたいと思ひます。</p>
教務部	<p>・児童生徒一人ひとりの健康状態や発達段階に応じた学習環境を整備し、できる限り学びが途切れないうちに指導を進める。</p>	<p>・個々の目標に応じて、系統的な学習が進められる個別の指導計画を作成する。</p> <p>・地元の学校との居住地校交流や前籍校との交流学习等、</p>	<p>・個別の指導計画に基づく学習が定着し、体調に応じて調整を行いながら、学びを継続することができました。一方で、児童生徒の実態により学習の振り返り内容や程度が異なるため、今後も担任等と情報を共有しながら、学習到</p>

		さまざまな環境で学びの充実を図る。	<p>達度等を適宜確認していきます。</p> <p>・保護者・医療機関・前籍校との連携が機能し、実態に応じた指導や交流学习の実施につながりました。交流学习については、今年度より自宅通学生の希望者も実施を始めました。今後も体調を考慮しながら、継続して交流の機会を設けられるよう努めていきます。</p>
自立活動	<p>・各児童生徒の障害の状態や特性、心身の発達段階に応じた指導・支援を目指し、児童生徒が主体的に取り組めるように努めます。</p>	<p>・児童生徒の実態を的確に把握できるようにしていきます。</p> <p>・児童生徒の心身の状態に配慮し、自己の成長を実感できるような指導内容や方法を工夫します。</p>	<p>・職員研修で、さまざまな分野の専門家に研修をしていただいたことで、正しい知識に基づいて児童生徒の実態を捉え、障害や病気の状態、特性に応じた指導・支援を行うことができました。また、研修内容を自立活動だよりに掲載し、保護者と共有することで、指導・支援への理解を深めることができました。</p> <p>・学部ごとに児童生徒一人一人の自立活動の目標について共通理解を図り、全職員が目標を意識しながら支援に取り組むことができました。今後も教員間や保護者、各機関と連携し、児童生徒の実態に応じた指導・支援を行っていきます。</p>
生徒指導部	<p>・安心・安全に学校生活を送ることができる環境を整えるとともに、児童生徒が互いに認め合い、安心して学校生活を送れる風土を作り上げられるように努めます。</p>	<p>・避難訓練や引き渡し訓練・シェイクアウト訓練の他、保護者との伝言サービス活用訓練、防災学習等を実施し、児童生徒の防災への意識を高めていきます。</p> <p>・児童生徒会活動やお昼の放送、あいさつ週間、部活動等、児童生徒が主体的・協働的に取り組める活動を工夫し、実践していきます。</p> <p>・各部会での児童生徒のいじめ等に関する情報共有及び部間、関連分掌との連携を図り、チーム学校として課題や相談を共有していきます。</p>	<p>・避難訓練では、生徒が救助袋を利用した降下訓練を行ったり、生徒が怪我をしたことを想定した訓練を行ったりするなど、実際に起きる出来事を取り入れた訓練ができました。</p> <p>・生徒会役員が挨拶の必要性や効果を理解し、率先して挨拶運動に参加できました。他部の児童生徒の手本になるような姿勢を見せることができました。</p> <p>・日々の生活の中で児童生徒の悩みに気付き、スクールカウンセラーを利用して面談を行うなど、早期発見に努めて心のケアを行うことができました。</p>
保健体育部	<p>・緊急対応・事故防止に対する意識の向上に努めます。</p>	<p>・ヒヤリハットをデータ上で共有できるシステムの構築します。</p> <p>・救急搬送の可能性がある児童生徒の情報共有を徹底します。</p> <p>・定期的に職員研修を実施します。</p>	<p>・ヒヤリハット報告をデータでも提出できるようにしました。報告された内容は各部会等で周知しています。昨年度より報告数が増えました。引き続き、ヒヤリハットの認識を広まるように努めます。</p> <p>・熱中症警戒アラートの発令や愛知県下における感染症情報を注視し、こまめに児童生徒や職員に発信をしました。手洗いや換気等の必要性を伝え続け、校内において感染症が流行することなく日々を過ごさせています。</p> <p>・119番通報に関する研修を実施しました。知多広域消防指令センターの職員から119番通報時のポイントなどの講義を受け、より安心・安全な校内体制づくりにつなげることができました。また、緊急搬送の可能性のある児童生徒情報について各部会等で周知徹底を図ることができました。</p>
進路指導部	<p>・生徒の実態と生徒・保護者のニーズを踏まえ、適切な進路決定に向け進路指導の充実に努めます。</p>	<p>・中学部、高等部向けに受検(受験)の制度や就労手続き、福祉サービスなど進路選択に活用できる情報を、進路だよりとして提供します。</p>	<p>・進路の手引きについて、これまでに受けた質問や意見を踏まえ、内容を厳選した概要版として、中学部、高等部の保護者へ配付をしました。来年度以降もニーズを踏まえて引き続き作成・配付をしていきます。</p>
教育支援部	<p>・児童生徒の実態や一人一人の教育的ニーズに応じ、きめ細やかな支援を行うため、教職員研修の充実を図るとともに、病弱特別支援学校としてのセンター的機能の推進に努めます。</p>	<p>・夏季休業中に実施する研修において、児童生徒への適切な支援・指導につながる研修を行い、地域の教育関係者にも公開します。</p>	<p>・夏季公開研修では公認心理師に協力していただき、「心理学的視点を通じた教育支援」に関する講演会を開催しました。本校職員以外にも、小・中学校や高等学校の先生方21名に参加していただきました。参加者からは「大変勉強になった」等の声もあり、学びある研修会となりました。</p>

<p>教育情報部</p>	<p>・ICT環境を整備し、児童生徒の学び力、教師の指導力を効率よく引き出すための取り組みや、職員が業務を円滑に行うための取り組みを行います。</p>	<p>・コラボノートなどの教育系クラウドの環境を整え、本校や施設内教育、訪問教育で教育を受ける児童生徒への学びの保証ができるようにします。</p> <p>・新規ネットワークの整備や運用を行い、職員がより快適に授業や学習に取り組める環境を目指します。</p> <p>・他の分掌や施設・訪問職員と連携をとりながら、業務の効率化を図れるよう、ICT環境整備を進めます。</p>	<p>・今年度は教育系クラウドを授業で活用したい希望が昨年度よりも増えてきています。健康面で学校に通うことが難しい児童生徒への教材提供をスムーズに行うことができていると思われます。</p> <p>・新規ネットワークの運用が軌道に乗り、職員も環境に慣れてきています。時折、ネットワーク接続のトラブルがありますが、ネットワーク支援を活用しながら大きなトラブルもなく運用できていると思われます。</p> <p>・行事で他の分掌から放送機器の接続等の依頼を受け、支援を行いました。施設でもクラウド化が徐々に進んでおり、データのやり取りが行いやすくなりました。</p>
<p>総合評価</p>	<p>1 個に応じた指導の工夫により、授業力が向上できたか。 児童生徒個々の状況について共通理解を深め、学習指導を行うよう努めました。小・中・高それぞれの部、施設内・訪問教育において、個々の課題やニーズを把握して、連携して指導にあたっています。</p> <p>2 自立と社会参加を促す教育活動が推進できたか。 小・中・高それぞれの年代ごとに適切な目標設定を行い、実践に努めました。今後も「自立と社会参加」という視点を大切に職員間の共通理解を図り、教育活動を行っていきます。</p> <p>3 安全・安心な学校づくりができたか。 さまざまな事態、事象を想定し、対応がスムーズに行えるよう、各種職員研修を積極的に実施しました。</p> <p>4 関係機関や保護者等との連携による教育活動が推進できたか。 退院後や卒業後の生活を見据え、病院や福祉機関との連携を大切にし、教育活動を行っています。発信する情報は精選し、わかりやすく伝えるよう工夫しています。</p> <p>5 センターの機能の充実ができたか。 夏季休業中に公開研修や院内学級との情報交換会を行い、病弱教育の理解に努めました。県内各地から多数の関係者が参加し、情報交換を行うことができました。</p> <p>6 仕事の効率化により、働きやすい職場づくりができたか。 6S (smile、親切、整理、整頓、清掃、清潔) をスローガンに、より良い職場づくりに努めました。ICT機器を活用するなど、業務内容の精選を図り、効率的で、働きやすい職場づくりを今後も進めていきます。</p>		